穀雨

皐月（さつき）の月

4月20日頃

あらゆる穀物を潤す春雨が降る頃。田で育った苗は種まきの時期を迎えます。田植の準備を始める目安の時季です。

田植の準備を始める味

阿蘇の大師祭りでは「小豆のおにぎり」や「煮しめ」が供えられます。
芳味が始まり、新茶が飲まれます。

煮しめ

大師祭りで食べられる煮しめは、季節野菜やこんにゃく、しいたけなどを丸のまま煮て、味が染みたら適当な大きさに切り揃えたものです。

穀雨料理
あらかると

八十八夜に新茶の香り

八十八夜は立春から数えて88日目のこと。この頃に摘んだお茶は上等なものとされています。熊本県のお茶は、球磨、八代、山鹿地域等に自生していた「山茶」を摘み製茶したことに始まると言われます。現在も山鹿市の品質茶、山都町の矢部茶、相良村の相良茶、八代市の泉茶など各地で香り高いお茶が生産されています。

御堂（みどう）の前でおもてなし

4月21日に行われる阿蘇の大師祭りは、「おだいっさん」と呼ばれ親しまれています。小豆のおにぎりや煮しめを作って大師に供えます。御堂の前にむしろを広げて、子供たちや通りがかりの人にもお茶を振る舞ってもてなします。

立夏

皐月（さつき）の月

5月5日頃

樹の上では夏の始まり。田植えの準備が始まり、蛙の声も聞こえ始める頃。爽やかな風が吹く過ごしやすい時季です。

爽やかな風を感じる味

端午の節句には「ちまき」が食べられます。阿蘇地域では一足早く田植えが始まり、小麦（こびる）※に「梅干し入りのおにぎり」が食べられます。

※小麦：麦畑と水田の間、または麦畑と麦畑の間にとる細い畝のこと

吉野ずし（八代）

酢飯の代わりに甘酸っぱいきらず（おから）を使ったお寿司。ネタはイワシかコノシロを使います。

立夏料理
あらかると

男の子の健やかな健康を祈って

長男の初節句には鯉幟と子供の名前入りの矢旗（やはた）が、鯉のぼりと共に立てられます。また菖蒲湯（しょうぶゆ）に入ったり、数本束ねたよもぎを母屋の屋根のひさしに投げあげたりして子供の健康と家内安全を願います。阿蘇地域では、重箱にちまきを詰めて若妻を里帰りさせます。八代地域では紅白餅をつきます。人吉球磨地域では菖蒲を頭に巻くと頭痛がしないと言われ、男性は菖蒲で鉢巻き、女性は菖蒲で髪の毛をくくります。

ちまき

端午の節句に食べられる細長い団子。植物の葉で巻いてゆでであげ、砂糖醤油などをつけていただきます。

阿蘇（神社）の農耕祭事の中に息づく二十四節気と熊本の食文化

農耕祭事が、四季を教えてくれる

二十四節気は、現在私たちの生活の中から風化しつつありますが、阿蘇（神社）の農耕祭事（国指定重要無形民俗文化財）の中で保たれてきています。私は、農耕とは、「人と自然とが上手くマッチした作法」だと考えています。おいしい食べ物が出来る時季というのを天が教えてくれて、人々はその時季に土を耕し、種を蒔き、収穫を行いました。そして、それを忘れないようにするために、節気の中に農作業を組み込み、そのたびに祭祀を行いました。それが御田（おんた）祭りであったり、風害を防ぐための風祭りであったりします。また、米が実るということは、今もそうですが、昔はまたとないものすごい喜びでした。米の豊作を神に感謝するために祭りを開きました。それが「田の実（たのみ）祭り」です。

熊本の豊かな食は、阿蘇の山と水の賜物です

熊本の食文化が阿蘇神社の農耕祭事に残っているということは、それだけ稲作を大切にしてきた、つまり、節気を大切にしてきたということができます。これは熊本が農業県であったからだと考えられます。他の地域では稲作を大切にしなくても、他のことで生計が立てられたのです。例えば、福岡は北九州の鉄鋼、鹿児島はシラス台地でお米が出来ないので陶器、工芸品や貿易をしていました。熊本の農業県の原点は、やはり阿蘇にあります。阿蘇山の噴火のおかげで熊本に広大な平野が生まれ、阿蘇の山々から水が流れ、それが川になり、農業に適した土地が生まれたのです。今、熊本が農業県であること、おいしいものが食べられるということは阿蘇のおかげなのです。だから私たちは本当は年中阿蘇山に感謝をしなければならないのです。阿蘇の山と水と農耕祭事は、「熊本」を語る上でのマスターキーです。

脈々と伝わる食文化に、直接、見て、触れられる幸せ

阿蘇の野焼きも広義の農耕祭事と捉えることができるでしょう。野焼きから始まり、白装束の宇宙利（うちり）が幻想的な御田祭り、田植えの頃と収穫期に風害を鎮めるための風祭り、米の豊作に感謝する田の実祭一季節ごとにメディアで報じられていますのでご存知と思います。直接行って、見て、触れることができることは本当に幸せなことなのです。熊本の食文化は阿蘇神社の農耕祭事に代表される食文化というかたちで残っています。これを忘れてはいけないし、なくしてはなりません。（談）

末吉 駿一（すえよし しゅんいち）

東京都生まれ。法律学科卒。
昭和41年、北九州小倉出身。旧制福岡高等学校文理クラス卒業。法学入学。法学部卒。中央大学卒業。昭和53年株式会社マイコード代表取締役に就任。
観光情報専門誌「くまもとの旅」発行。33年間編集・発行。東京都生涯学習講師。平成27年「くまもと観光賞・特別功労賞」受賞。